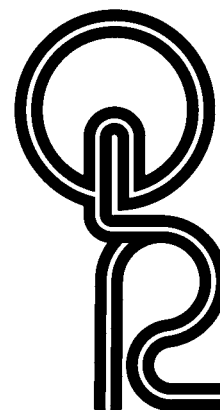


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 20 No.3, 2013



第4回 PAGES Open Science Meeting において講演する IPCC 議長 R. パチャウリ博士 (左) とアラビア海をのぞむビーチの会場でのポスターセッション (右) (2013年2月、インド、ゴアにて、撮影：久保純子)

Vol. 20 No.3

June 1, 2013

2013年大会案内・・・・・・・・・・2	PAGES 報告・・・・・・・・・・6
アジア第四紀学会議・・・・・・・・4	歴史地震研究会・・・・・・・・7
編集委員会から・・・・・・・・・・4	教員公募・・・・・・・・・・7
日本第四紀学会特別講習会・・・・5	学生会員継続届・・・・・・・・8
INQUA 若手研究者会議・・・・・・5	会員消息・・・・・・・・・・8

◆日本第四紀学会 2013 年大会案内 (第 3 報)

1. 日時・開催場所

2013年8月22日(木)～8月24日(土)

弘前大学教育学部(〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地)

2. 日程

8月22日 一般研究発表(口頭およびポスター)・評議員会

8月23日 一般研究発表(口頭およびポスター)・総会・懇親会

8月24日 公開シンポジウム

8月25日 巡検

3. 発表の申し込み締め切り: 2013年6月14日(金)

申し込み詳細については前号(2013年4月発行)の第四紀通信(<http://quaternary.jp/report/QRNL2002.pdf>)をご参照ください。なお、発表申し込みと次の「懇親会・巡検申し込み先のアドレス」は異なりますのでご注意ください。(発表申し込み e-mail 宛先: jaqua2013(at)gmail.com)

4. 参加費・懇親会申し込み等

○大会参加費: 2,000円(会員・非会員を問わず)。会場受付でお支払い下さい。ただし、大学院生の会員は1,500円、70歳以上の会員と学部学生、シンポジウム依頼講演者は無料です。また、公開シンポジウム(8月24日)は無料です。

○講演要旨集: 予定価格2,000円(会場で直接販売。ただし、発表数等によって価格が若干変動する場合があります。)

○会期中の昼食: 大学生協が利用できます。

○懇親会に参加される方は申し込みをお願いいたします。

日時: 8月23日(金) 18:00～(予定)

会場: 弘前大学・大学会館2階「スクーラム」

参加費: 一般5,000円、学生2,500円

予約: 8月9日(金)までに e-mail: jaquahirosaki(at)gmail.com か Fax: 0172-39-3347 で大会実行委員会事務局・小岩までご連絡下さい。

5. 公開シンポジウム「考古遺跡からみた津軽の人と自然」

趣旨: 青森県津軽地方には、亀ヶ岡遺跡をはじめとする学術的にも貴重な縄文時代遺跡が多数存在しています。このような地域において人と自然の関係を明らかにすることは、第四紀学においてきわめて重要な課題の一つであると思われます。今回のシンポジウムでは、津軽地方における考古学、および遺跡、遺物を対象とした地形学、地質学の研究成果から、遺跡を通じた人と自然の関係を議論します。

日時: 8月24日(土) 9:00～12:30

場所: 弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール

世話人: 桧垣大助・小岩直人・亀井 翼(弘前大学)

9:00- 9:05 趣旨説明

9:05- 9:35 津軽の縄文時代—亀ヶ岡文化を中心に— 関根達人(弘前大学)

9:35- 10:00 東北地方北部の更新世末期・完新世の植生史 安 昭炫(株式会社パレオ・ラボ)

10:00- 10:10 (休憩)

10:10- 10:35 津軽の地形形成のテクトニクス 根本直樹(弘前大学)

10:35- 11:00 津軽の地質と土器材料 柴 正敏(弘前大学)

11:00- 11:10 (休憩)

11:10- 11:35 津軽平野の地形発達と遺跡の消長 小野映介・片岡香子(新潟大学)

11:35- 12:00 縄文遺物を含む近世の破堤堆積物 鎌田耕太郎(弘前大学)・伊藤由美子(青森県立郷土館)

12:00- 12:30 総合討論

6. 巡検「津軽平野とその周辺域の第四紀地形・地質と縄文遺跡」(日帰り)

日程: 2013年8月25日(日) 日帰り

案内者: 桧垣大助・小岩直人・亀井 翼

8:00 弘前大学正面玄関前 出発

・鱈ヶ沢町北浮田(海成段丘構成層)

・出来島(「最終氷期埋没林」、日本最北のAT)

・亀ヶ岡遺跡(概観の観察)

・十三湖潮流口付近の食堂にて昼食(しじみラーメンを予定)

・五月女泡遺跡(クロスナ層に発達する縄文後期～晩期の遺跡)

・小泊半島南西部(活動的な地すべり地形)

・青森湾西岸断層帯(車窓観察)

17:00 新青森駅

・入内断層付近を通り青森空港へ

17:30 青森空港（羽田行き最終便搭乗可能）

18:30 弘前大学着

天候および遺跡発掘現場の事情等により変更になることがあります。

募集人員：30名（大型バス使用）15名未満の場合は中止

参加費：4,000円（バス代、昼食代、保険料含む）

申し込み方法：参加希望者は、e-mailにて、氏名・所属・連絡先（住所・電話番号・メールアドレス）を明記し、下記の宛先までお申し込みください。

申し込み先：jaquahirosaki(at)gmail.com

大会実行委員会事務局・亀井 翼（Tel：0172-39-3190）

申し込み締め切り：7月31日（水）

7. 重要締切日程

○一般発表申し込み締め切り：6月14日（金）、上記3参照

○巡検申し込み締め切り：7月31日（水）、上記6参照

○懇親会の予約申し込み締め切り：8月9日（金）、上記4参照

8. 大会実行委員会

実行委員会委員長 桧垣大助

連絡先：実行委員会事務局長 小岩直人

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

弘前大学教育学部

Tel/Fax 0172-39-3347

koiwa(at)cc.hirosaki-u.ac.jp

○弘前大学へのアクセス

本学のウェブサイトの交通アクセス情報

(<http://www.hirosaki-u.ac.jp/access/access.html>)

キャンパス案内（弘前駅・弘前大学バスターミナルからのアクセスも含む）

(<http://www.hirosaki-u.ac.jp/access/hirosakimap/index.html>)

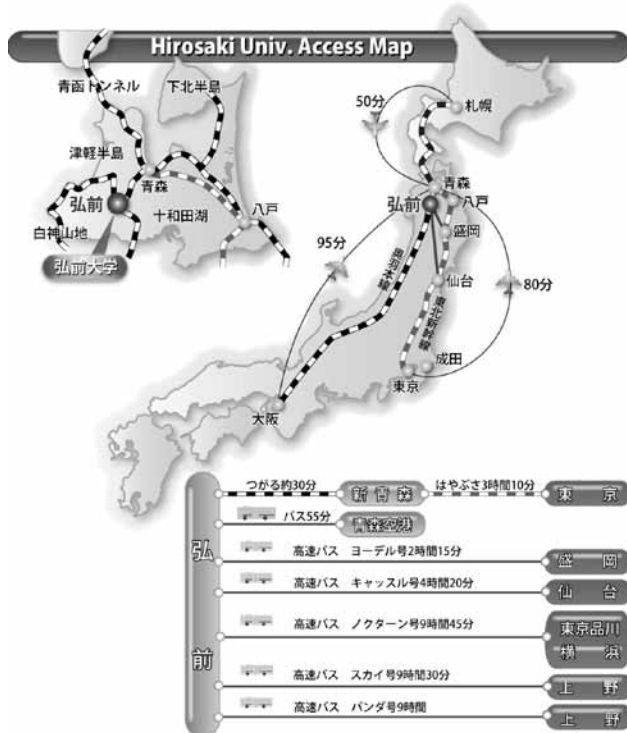
弘南バスのウェブサイト

(<http://konanbus.com/>)

○宿泊

弘前市内のホテルをご利用ください。宿泊の予約は各自でお願いいたします。

【アクセスマップ】



【キャンパスマップ】



◆第2回アジア第四紀学会議 (Asian Conference on Quaternary Research: AsQUA)

この会議は日本第四紀学会創立 50 周年の国際シンポジウムのと看 (2005 年) に、アジア各国の第四紀研究者により結成されました。第 1 回会議は 2009 年に中国で開催され、今回の第 2 回会議はロシアで開催されます。日本第四紀学会も後援して代表者を派遣する予定です。会員の皆様にもシンポジウムの共催や共同コンピーナー等とともに、会議への積極的なご参加をお願いします。

2nd AsQUA: Advances in the Quaternary of Interior Asia
AsQUA: Asian Conference on Quaternary Research

September 09-15, 2013, Ulan-Ude - Baikal, RUSSIA

The main discussed topics are:

- * Stratigraphy and correlations of global biotic and abiotic events and signals in Eurasia with emphasis on Interior Asian geological record;
- * Quaternary chronostratigraphy and subdivisions, global chronostratigraphical correlation;
- * Paleontology and biochronology of fossil mammals and plants; Geological and paleontological succession to define the boundaries between Quaternary subdivisions;
- * Quaternary Environmental Dynamics of Eurasia in context of global change.

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください。

<http://asqua2013.borea.ru/>

(参考)

ASQUA 第 1 回会議 2009 年 10 月、北京にて開催

参加報告 (第四紀通信掲載)

<http://quaternary.jp/report/QRNL1701.pdf>

◆編集委員会からのお知らせ 「受理後に提出する電子データの形式について」

編集委員会において受理となった原稿は、印刷所に入稿するために印字原稿と電子ファイルを提出していただいています。印刷所での編集作業は、基本的にこの電子ファイルを用いて行っています。印刷所の編集ソフトが 2013 年から変更になり、扱える電子ファイルの形式が広がりました。ただし、いくつかの注意点もありますので、ここにお知らせし、原稿作成時から役立てていただければと思います。

- 1) 印刷所で受け付ける電子ファイルの形式は以下のようになっております。これら以外の形式については、編集委員会にお問い合わせください。
電子ファイルの形式 : jpg, tiff, psd, eps, ai, pdf, doc, docx, xls, xlsx
- 2) 解像度については、線画の場合に 600 ~ 1200dpi、モノクロ画像の場合に 300 ~ 600dpi、カラー画像の場合に 350 ~ 600dpi の解像度が必要です。この必要解像度は実際の印刷サイズであることにご注意ください。ちなみに、第四紀研究の最大印刷サイズは横 14.5cm・縦 20.5cm です。
- 3) 特殊なフォントや記号を利用した場合、指定したものと異なるフォントに置き換わる可能性があります。とくに xls や xlsx ファイルについてはご注意ください。フォントを埋め込んだ pdf を作成するなどの対処をしてください。
- 4) カラー画像については、RGB で作成している場合が多いと思います。印刷所では CMYK に変換しますので、作成時のモニター上や個人のプリンターで確認した色と異なる印象を受ける場合があります。初校でのチェックを入念にお願いいたします。

◆日本第四紀学会特別講演会のお知らせ

【自然環境の過去・現在から未来を見据える：環境と自然災害】

日 時：2013年6月22日（土）13:00～17:00

場 所：大阪大学（豊中キャンパス）大学院理学研究科 D501 講義室（下記 HP 参照）

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/>

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/toyonaka>

参加費：無料（申込不要、非会員の方の参加も歓迎します。）

（開催趣旨）

近年、環境問題や自然災害に対する社会の関心はますます高くなりつつある。日本第四紀学会は、かねてから、人類と人類を取り巻く自然環境の変化に関心を寄せてきた。そしてこのような会員の学会活動は、環境問題や自然災害に関する理解や対策の構築などにも寄与してきた。そこで今回は、2011年と2012年の日本第四紀学会学術賞受賞者の方々と、1名のゲストスピーカーをお招きし、自然環境や自然災害について「自然環境の過去・現在から未来を見据える」という観点から御講演いただくことにした。当日は、当該分野の研究者はもとより、この分野の研究に興味を持つ学生、隣接分野の研究者、あるいは関心をお持ちの一般の方々などに向けて、御自身の研究成果を中心に御紹介いただき、未来を見据えるための鍵についても触れていただけるものと考えている。

（プログラム）

開会挨拶

第1部【人類の時代の環境変動】

13:10-13:50

成瀬敏郎（日本第四紀学会 2012 年学術賞受賞者；兵庫教育大学名誉教授）

「第四紀の古環境変動と風成塵・レス」

14:00-14:40

兵頭政幸（日本第四紀学会 2012 年学術賞受賞者；神戸大学教授）

「地磁気の逆転と気候変化」

第2部【次の大地震・大津波を見据える】

15:10-15:50

寒川 旭（日本第四紀学会 2011 年学術賞受賞者；産業技術総合研究所）

「地震考古学への招待—遺跡から 21 世紀の大地震を考える—」

16:00-16:40

都司嘉宣（特別講演：深田地質研究所）

「歴代南海地震による、近畿圏での詳細震度分布、および津波被害」

閉会挨拶

（問合せ・連絡先）

高田将志（奈良女子大学人文科学系）

e-mail：takada(at)cc.nara-wu.ac.jp 電話：0742-20-3323

谷 篤史（大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻）

e-mail：atani(at)ess.sci.osaka-u.ac.jp 電話：06-6850-5540

◆ INQUA 若手研究者会議（Early Career Researcher inter-congress meeting）

2013年12月2～6日にオーストラリアのWollongong Universityで、博士課程など若手向けの研究キャリア支援ワークショップが開かれます。

Quaternary InternationalのECR特別号も企画されています。

詳しくは下記サイトをご参照ください。

<http://www.inqua.org/ecrMeetings.html>

◆ PAGES (Past Global Changes) について

横山祐典 (PAGES SSC; Scientific Steering Committee)

PAGES は将来の環境変化を予測するために過去の環境復元を行う科学研究をサポートする、IGBP (地球圏-生物圏国際協同研究計画) のコアプロジェクトのひとつです。特に更新世以降の地球科学的にみた“近過去”の環境研究を推進して行くプロジェクトです。最近では、サポートしている“2K プロジェクト (過去 2000 年間の気候復元)”の結果である過去 2000 年間の表層気温復元結果が、Nature Geoscience の 5 月号に発表されました。PAGES については <http://pages-igbp.org> に情報があり、また日本の PAGES についても <http://geos.ees.hokudai.ac.jp/japanpages/> をご覧頂き、参考にいただければと思います。INQUA や JAQUA とも密接にタイアップできるプロジェクトであり、多くの皆様に関心を持っていただければ幸いです。

◆ 4th PAGES Open Science Meeting 参加報告

南雲直子 (東京大学大学院新領域創成科学研究科)

2013 年 2 月 13 日 (水) ~ 2 月 16 日 (土) にインド西海岸ゴア州で開催された、4th PAGES Open Science Meeting に参加する機会を得た。本会議はインド地球科学省をはじめとする多くのスポンサーの協力を得て開催され、「The Past: A Compass for Future Earth」というテーマのもとで議論が交わされた。現地新聞に掲載された記事によれば、参加者は 44 カ国から集まった 400 名以上とのことであったが、日本を含む東アジアの参加者は少数で、ヨーロッパからの参加者が多数を占めていた。

PAGES (Past Global Changes) は IGBP (International Geosphere-Biosphere Programme) のコアプロジェクトの一つである。本会議では気候変動に関係する 16 のセッションが設定され、毎日 2 会場での口頭発表、プレナリーセッションとポスター発表が行われた。口頭発表件数は各ブロック 6 件と比較的少なかったが、ポスター発表では各セッションにつき 2 日間のポスター掲示と 2 時間のコアタイムが設定されていたことから、十分な議論を行うことができた。また、会場がアラビア海に面したリゾートホテルであったこともあり、ポスター発表がプライベートビーチを望むオープンエアの会場で行われたのが印象的であった。

最終日の総合討論では、「Post it Analysis」と称した議題提起が行われた。参加者は事前に配布された付箋に PAGES への提案を記入し、用意されたホワイトボードに貼り付けるよう求められており、主催者がそれらを取りまとめて討論の口火とした。ここでは PAGES 組織へのコメントやワーキンググループ、アウトリーチ活動などについて意見が述べられ、特に若手研究者や途上国の研究者への支援、人文系分野との交流の必要性などについて熱心に議論が交わされた。

会期終了後の 17 日 (日) には、Central Goa、South Goa、North Goa を訪ねる 3 つの 1 日巡検、

そしてデカン高原への 3 日間の巡検が行われ、筆者は Central Goa の巡検に参加した。9 時半頃に出発後、午前中は Dhempe College の Manoj Ibrampurkar 博士の案内で Aguada 岬へと向かった。ここでは海岸段丘が発達しており、ノッチやアーチも見られたほか、約 27 億年前の Sanvordem 層などを観察することができた。その後、ポルトガルによって 1612 年に建設された Aguada 要塞を見学し、昼食を取ったあと Old Goa へと向かった。ゴアは大航海時代より海上交易の中心地として繁栄し、1510 年~1961 年までポルトガル領であったことから、一般的なインドとは異なる文化や景観を持つ。私たちが訪れた St Augustine 教会もポルトガルの遺産の一つで、ラテライトと漆喰で造られた塔が残る。この教会は 1835 年に放棄されたのち、1998 年からインド考古局によって保存事業が行われているとのことであった。同じく植民地時代に建設された教会である Basilica of Bom Jesus の内部には、宣教師フランシスコ・ザビエルの遺体が現在も安置されていた。その後、考古学博物館などを訪ね、巡検は 18 時半頃終了となった。

今回の会議は多くの国々から参加者が集まる中で、発表セッションや巡検の運営だけではなく、事前に行われた宿泊先の手配、各ホテルや空港から会場までの交通、食事・ティータイムの準備(ほとんどがベジタリアン向けの食事であった)など、とてもよく組織されていたように感じた。また、アイスブレイカーとして行われたビーチパーティーのほか、ビーチサッカーやカンファレンスディナー、パブリックレクチャー (Rajendra K. Pachauri 博士による講演) など、毎日さまざまなプログラムが企画されていた。筆者は初めて訪れるインドでの国際会議ということで、最初は不安であったが、他の参加者と議論したり交流したりする場面が多くあり、実り多く、心から参加して良かったと思える会議となった。

◆ PAGES 参加記

佐藤明夫（東京大学大学院生）

2月13日より16日まで、インドのゴアでPAGESのOpen Science Meeting(OSM)が開催され、ポスター発表のため参加した。国際学会への参加は私にとって初めてであり、なおかつ一人での旅程となった。開催都市となったゴア州へはインド国内線の乗り次ぎが必須であり、ムンバイの国内線空港ターミナルの雑踏で一晩を過ごすというのは大変刺激のある経験であった。その緊張のままゴアに入り、会議の行われるメイン会場から少し離れたホテルへ向かった。英語力への不安は尽きることなくここでも日本人は私だけで戸惑ったが、一緒になった参加者との会話に加わりとうと必死であった。参加者は特にどの地域からが多いとの印象はなく、ロシア、ベトナム、カナダ、南アフリカ、メキシコ、チリ…等多様であった。その中で大学院生やPost Doctorなどの同世代はたいへん親しい集まりとなった。PAGESには気候変動に関わる多分野の研究者が集うため、それぞれの研究内容や各国での研究生活に関する話題は幅広く、研究活動において視野を広げる大切さを再認識させられた。OSMでは各分野のスペシャリストによるPlenary Talkが毎日設けられ、それぞれの分野が抱える諸課題のトピックについて講演が開

かれた。その後のOral sessionでも質疑応答の活発な議論が展開された。また、ポスターセッションは前半・後半の各2日間に渡って各人のポスターを掲示することができ、余裕のあるスケジュールで参加者との議論を深められた。加えてこのポスター会場はインド洋のビーチを臨む野外の穏やかな木陰に設置された。セッションの隔たりなくゆったり議論できる自由な雰囲気は、どの参加者に聞いてもたいへん好評であった。自分のポスターはOSM06. Past changes in fluvial systems, flood plains and estuariesのセッションで掲示し、参加者から意見や議論を引き出そうと必死であった。自身の研究テーマが中央アジアにおける乾燥-半乾燥地域の環境変動ということで日本国内の学術大会ではマイナーな対象かもしれないが、この地域を専門とする先行の研究者、乾燥-半乾燥地域を専門とする研究者をはじめ、たいへん多くの参加者に関心を示して頂いた。こうしてある程度ではあるが、自分の研究テーマとその方向性に自信を持つことができた。そしてなによりゴアで多くの友人を得て、国際的な研究活動への意欲をさらに高められたことは貴重な財産である。

◆ 第30回歴史地震研究会のお知らせ（第1報）

歴史地震研究会では、2013年9月14日（土）～16日（祝日）の3日間にわたって、秋田大学（秋田市）にて第30回歴史地震研究会大会を開催いたします。
詳しくは歴史地震研究会のホームページをご覧ください。
<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/menu7.html>

◆ 教員公募

新潟大学教育研究院自然科学系 環境科学系列 准教授公募

公募人員：准教授1名

担当学部・大学院：理学部地質学科、自然科学研究科環境科学専攻

着任時期：平成25年10月1日以降のなるべく早い時期

応募締切：平成25年7月12日（金）必着

詳しくは本学会ホームページの公募・助成 (<http://quaternary.jp/koubo/index.html>) をご覧ください。

新潟大学教育研究院自然科学系 環境科学系列 助教公募

公募人員：助教1名（任期5年、再任なし）

担当学部・大学院：理学部地質学科、自然科学研究科環境科学専攻

着任時期：平成25年10月1日以降のなるべく早い時期

応募締切：平成25年7月12日（金）必着

詳しくは本学会ホームページの公募・助成 (<http://quaternary.jp/koubo/index.html>) をご覧ください。

◆学生会員の皆さまへ「学生会員継続届け」提出のお願い

2000年度から学生会員は、毎年在籍中であることを「学生会員継続届け」として提出して頂くことになっています。

2013年度（2013年8月1日～2014年7月31日）を学生会員として継続希望される方は、A4判の用紙（様式自由・ワープロ使用）に、申請者の所属・学年・氏名・連絡先・指導教官氏名を明記のうえ、指導教官の署名または捺印を添えてお送りいただくか、有効期限が明記された学生証のコピーを2013年7月31日（水）までに日本第四紀学会事務局まで郵送して下さい。本届が提出されない場合は、2013年度第1回目会費請求時に、正会員会費にて会費請求がされますので、ご注意ください。

なお、2012年度から学生会員として入会された方も提出願います。

また、日本学術振興会特別研究員（PD）や科学技術特別研究員などは通常会員となります。

問合先・送付先：〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号

新宿ラムダックスビル 日本第四紀学会事務局

E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com TEL：03-5291-6231 FAX：03-5291-2176

提出方法：郵便に限ります。

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：兵頭政幸（mhyodo(at)kobe-u.ac.jp）宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 神戸大学 内海域環境教育研究センター 兵頭政幸

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 FAX：078-803-5757

広報委員：糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル10階

株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com 電話：03-5291-6231 FAX：03-5291-2176